

報道関係者 各位

TACT FESTIVAL 2026

相撲×音楽 JACSHA 部屋 稽古見学会 開催！

～新作公演に向けたクリエイション～

日本全国各地に伝わる相撲神事や大相撲をリサーチし、新たな芸術作品を創作する作曲家ユニット『日本相撲聞芸術作曲家協議会=Japan Association of Composers for Sumo Hearing Arts、通称：JACSHA= ジャクシャ』による新作音楽公演を、2026年5月GWに開催することもから大人まで誰もが楽しめる舞台芸術祭 TACT FESTIVAL (= Theatre Arts for Children and Teens) にて、発表します。

JACSHAは、鶴見幸代、野村誠、樺山智子で構成、それぞれ多分野で活躍するアーティストで、JACSHAとしてもアサヒアートスクエア（東京）、さいたまトリエンナーレ（埼玉）、水と土の芸術祭 2018（新潟）など、全国各地の芸術祭やアートセンターで、現地の相撲文化をリサーチし、斬新な作品を発表してきました。

今回、彼らが焦点を当てたのが、巡業などで力士や呼び出しが披露する『相撲甚句』です。

2月上旬に「JACSHA 部屋 稽古見学会」と題し、クリエイションの様子を見学いただける機会を設けました。ぜひ、この機会に、JACSHAが構想する「相撲×音楽」の世界に触れていただき、興味を持っていただけますと幸いです。



左から、JACSHA（樺山智子、野村誠、鶴見幸代）、松田哲博（元・一ノ矢ノ高砂部屋）

JACSHA ホームページ <http://jacsha.com/>

JACSHA 活動アーカイブ <http://jacsha.com/media>



HP



活動アーカイブ

<お問合せ>

東京芸術劇場（東京都歴史文化財団）

事業に関するお問合せ TEL：03-5391-2114（事業第一係） MAIL：music@geigeki.jp

報道関係のお問い合わせ TEL：03-5391-2117（広報営業係） MAIL：pr@geigeki.jp

「JACSHA 部屋 稽古見学会」スケジュール 会場：東京芸術劇場 リハーサルルーム M1 (B2F)

【スケジュール】 ※クリエイションの進捗により、スケジュールが変動する可能性があります。

2月4日(水) 18:00～21:00 クリエイション①

参加者：JACSHA、工藤あかね(ソプラノ)、松平敬(バリトン)、松田哲博(元・一ノ矢/高砂部屋)

2月5日(木) 10:00～12:00 クリエイション②

参加者：JACSHA

13:30～18:00 クリエイション③

参加者：JACSHA、工藤あかね、松平敬、松田哲博(元・一ノ矢/高砂部屋)

2月6日(金) 13:00～18:00 クリエイション④

参加者：JACSHA

お申込方法

【見学希望の場合】

- ・スケジュールの中から、参加希望日時をメールにてお知らせください。途中入退場は可能です。
- ・見学希望者が多い場合、参加いただけない場合がございます。予めご了承ください。

【取材希望の場合】

- ・2月3日～9日の間であれば、調整が可能です。希望日時をご連絡ください。

プロフィール

日本相撲間芸術作曲家協議会

(Japan Association of Composers for Sumo Hearing Arts、通称：JACSHA= ジャクシャ)



全国各地に伝わる相撲神事や大相撲をリサーチし、神事であり、芸能であり、スポーツであり、エンターテインメントであり、伝統であり、現代であり、文化であり、つまり智慧である相撲に耳を傾けること(相撲間:すもうぶん)によって、新たな芸術を創造する作曲家の協議会。メンバーは、共同作曲のパイオニアの野村誠、世界各地でサイトスペシフィックな作品を作る樫山智子、沖縄民謡や映画音楽でも活躍の鶴見幸代。2008年の設立以来、《相撲間芸術のもくろみ》(アサヒアートスクエア)や、《相撲間芸術研究室》および《JACSHA 土俵祭り in 岩槻》(さいたまトリエンナーレ 2016)、《JACSHA 土俵開き in あげぼの公園》(水と土の芸術祭 2018)ほか、

市民参加型のイベントやパフォーマンス、インスタレーションなどを発表。城崎国際アートセンター(豊岡市)レジデント・アーティスト(2018年、2020年)、およびコミュニティプログラム・アーティスト(2022-2024年)。2020年10月には竹野子ども体験村(兵庫県豊岡市)にて《オペラ双葉山～竹野の段》を初演し、その創作プロセスを追った映画《霧の音》(波田野州平)が2022年に公開された。

<お問合せ>

東京芸術劇場(東京都歴史文化財団)

事業に関するお問合せ TEL: 03-5391-2114(事業第一係) MAIL: music@geigeki.jp

報道関係のお問い合わせ TEL: 03-5391-2117(広報営業係) MAIL: pr@geigeki.jp

鶴見幸代 TSURUMI Sachiyo



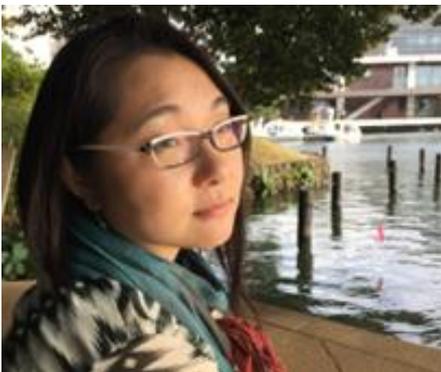
1976年、茨城県坂東市生まれ。作曲家。東京藝術大学作曲科卒業。コンサート音楽、合唱、映画音楽、相撲間音楽、伝統音楽の現代風編曲などを手がける。作曲家グループ「クロノイ・プロトイ」として佐治敬三賞受賞。鶴見幸代作品集 CD「eu canto..」をリリース（fontec）。企画、参加活動に、バス旅行とコンサートのイベント「はどバス」、願いごとが歌になるカフェ「ササノハ」、アーティスト・イン・レジデンス「はまみつくす」、エイブルアート・オンステージ「みつつのうたでドントカ」、世田谷パブリックシアター「地域の物語ワークショップ」ほか多数。第3回両国アートフェスティバル2017「ぶつかりピアノ両国門天場所」芸術監督。2018年 Arts Tropical にて個展「20世紀／方法／日本／相撲間芸術／沖縄」開催。琉球古典音楽野村流保存会教師。

野村誠 NOMURA Makoto



1968年生まれ。作曲家。京都大学理学部卒業。小学校で相撲部に、中学校で落語研究会に所属。横浜トリエンナーレ2005では「ズーラシアの音楽」を、福岡アジア美術トリエンナーレ2009で「お湯の音楽会」を、あいちトリエンナーレ2010で「プールの音楽会」を発表。千住だじゃれ音楽祭ディレクターで、2014年に「千住の1010人」2025年に「キタ！千住の1010人」を発表し、1010人で演奏した。現在、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクターとして、オーケストラの新たな可能性を探求中。CDに「ノムラピアノ」（とんつーレコード）、「瓦の音楽」（淡路島アートセンター）などがある。著書に、『音楽の未来を作曲する』（晶文社）ほか多数。

縦山智子 MOMIYAMA Tomoko



1977年福井生まれ、ニューヨーク/カリフォルニア育ちの作曲家。スタンフォード大学卒業（音楽／人間生物学）、情報科学芸術大学院大学 IAMAS 修了（メディア表現）。インスタレーション作品《その時代その場所の不透明性の中で聴く》（コンテンポラリー・アート・タスマニア、2022～）や、観客参加型パフォーマンス《一音で地球の底まで行って帰ってくる》（サンフランシスコ国際芸術祭、2019）、マルチメディア・パフォーマンス《人類が絶滅するころに》（南アフリカ Unyazi 電子音楽祭、2014）など、国内外の各地で分野を横断するサイトスペシフィックなプロジェクトを展開している。マイリマジオリテ・トラベル主宰、Art Translators Collective 共同ディレクター、九州大学および愛知大学非常勤講師。

＜お問合せ＞

東京芸術劇場（東京都歴史文化財団）

事業に関するお問合せ TEL：03-5391-2114（事業第一係） MAIL：music@geigeki.jp

報道関係のお問い合わせ TEL：03-5391-2117（広報営業係） MAIL：pr@geigeki.jp